



The sky's the limit.

全国大会参加報告～特別国民体育大会 少年女子～

今年度は鹿児島県を舞台に開催された特別国民体育大会「燃ゆる感動 鹿児島国体」のサッカー競技へ当地区から牧田審判員、大村審判員が参加しました。
今回は「少年女子」に参加した大村審判員の報告です。

【研修会テーマ】 『決断力』

【担当試合】

1回戦	大分県vs岡山県	主審
準々決勝	宮崎県vs静岡県	主審
準決勝	鹿児島県vs静岡県	副審
決勝	大阪府vs鹿児島県	第4の審判員



【試合を担当して】

- ・頭部の負傷であったため試合を止めるという判断を素早く行うことが出来たことは良かった。第四の審判との打ち合わせで、スタッフ(メディカルスタッフ)の競技のフィールドへの入場を認めるジェスチャーの前に担架のジェスチャーをした場合は同時に入れることを許可するという話をしていたが、周りから見た時に不明確な為、順序を踏んでジェスチャーをするべきだった。
- ⇒順序は笛→スタッフ→担架がスタンダードであること。あくまで、担架が必要だと判断をするのはレフェリーではなくチームスタッフであることを再確認した。特に頭部の負傷の場合は素早い判断が必要である。
- ・ペナルティーアーク付近で GK と FW の接触があった場面で、最初にディフェンスファウルで笛を吹きシグナルを出したが、自分の判定に疑問を持った為アシスタントレフェリーに意見を求めた。お互いに見えたこと、意見を冷静に擦り合わせ FW のファウルに吹き直した。
- ⇒レフェリーが自分で正しい判断を出来るのが一番良いが、ディフェンスファウルの場合 SPA や DOGSOの可能性も考えられカードや得点にも関わる為、他の審判員と協力して正しい判断を導くことが出来たのは良かった。

【振り返り】

今回の研修では今まで経験したことのない事象が自分の試合や会場で起き、テーマである「決断力」が多く求められました。また、初めてお会いする審判員の方と一つの試合をチームとして担当する難しさを感じました。ですが、各都道府県の代表が集まる全国大会で、試合を担当させて頂けるという喜びを感じながら、その環境を楽しむことが出来ました。特に今回は、主審担当 2 試合、副審担当 1 試合、決勝では第 4 の審判員とこれ以上ない程の経験をさせて頂き、一緒に組ませていただいた一級の方達の立ち振る舞いやレフェリングから多くの学びを得ました。そして、北海道外で一級受験をしている仲間と直接会うことが出来たことはとても嬉しかったです。年齢や職業がバラバラでも、同じ目標に向かっていく仲間と活動できる素晴らしさを再確認することが出来ました。

最後に、本大会・研修会に参加させて頂き本当にありがとうございました。特別国民体育大会に参加するのは初めてでしたが、地域の方々の応援や熱気を近くで感じ、それが選手をはじめ、大会全体への活力となっているのを見て感動しました。北海道で活動している中でも、常に沢山の方々から支えられているお陰で審判活動を楽しむことが出来ているということをお忘れず、これからも頑張っ成長していきたいです。

- Referee Development Partner -

GOLD



にしみこども
クリニック

BRONZE

